

◇編集後記◇

本号の JOH 誌は、4本のオリジナルペーパー、1本のフィールドスタディおよび1本のブリーフ・レポートから構成されています。オリジナルペーパーは、動物実験を基にした病理学的検討や人体生理指標を精緻に測定した所見に基づく体温モニタリング技術についての提案から大規模疫学研究にまでバラエティに富んでいます。2本の疫学研究はいずれも海外からの報告で、デンマークとカナダから長期間におよぶ追跡調査の結果が報告されました。フィールドスタディとブリーフ・レポートも、それぞれ、鉄道の駅における気中の真菌類を継続的に調査し駅の構造が真菌の分布や構成に影響を与えることをとらえたもの、気中のニトロメタンの新しい捕集方法について検討した論文と丁寧な研究の成果です。

産衛誌には、32年間に及ぶ健康診断受診者の身体所見の推移、東京圏在住労働者の通勤時の身体運動量の推計、職業性ストレスと抑うつとの関係を上司のサポートが緩衝する可能性、地域包括支援センター職員の労働環境と職業性ストレスに関する報告と、いずれも現場に立脚した貴重なデータが丹念に整理・解析されたのちに報告されています。52巻1号からはじまった連載企画「産業保健の現場で役立つ心身医学」は最終回となりますが、産業現場における重要な課題とその方策についてコンパクトにまとめていただい連載は、まさに現場での活動に参考になる内容だと思います。

もうひとつ、今回の産衛誌の紙面で、話題の取り上げられ方の変化にお気づきになられた会員もおられるかと思ひます。本号の話題は、中性脂肪が異常に高く、

LDL コレステロールが極端に低い症例から、LDL コレステロールの直接測定とその数値を使用することへの疑問を、会員が参加した学会のシンポジウムでの議論を踏まえて考察された報告です。日本動脈硬化学会も2010年4月10日付で、1) LDL コレステロールの直接測定法の標準化、2) 一般診療現場での Friedewald 式の推奨、3) 特定健診における総コレステロール測定の追加、4) 中性脂肪が以上高値を示す場合のリスク管理の指標の提案といった学会見解を提出 (<http://jas.umin.ac.jp/>) したばかりのホットな話題です。

本号では、この話題提供に対して、専門家にコメントを依頼し同時掲載しています。専門家のコメントを同時掲載するというのは初の試みでしたが、その意見や解説によって議論が深まり、豊かかつ有用な情報となったのではないのでしょうか？ 日常接している健診データを評価する際の留意点を改めて想起された会員も多いのではないかと思います。本話題を通して、私たちも、日常業務の中での疑問が重要な問題に気づくきっかけであること、丁寧に実務を行っていくことの大切さを再認識しました。今後も、産業保健・医学・看護分野をさらに発展させる媒体とすべく紙面づくりに努めたいと思っています。

平成21年に公表された産衛誌掲載論文から3編が優秀論文として選考されました。まもなく本誌で紹介されます。会員の皆様のふるってのご寄稿を期待しております。

(堤 明純)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：川上憲人（東京大）

副委員長：荒木田美香子（国際医療福祉大）、井上和男（帝京大）、上島通浩（名古屋市立大）、
車谷典男（奈良医大）、堤 明純（産業医大）、福島哲仁（福島医大）、森本泰夫（産業医大）

有澤孝吉（徳島大）、石竹達也（久留米大）、市場正良（佐賀大）、小笹晃太郎（放射線影響研究所）、掛本知里（東京女子医大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（大阪府公衛研）、黒沢洋一（鳥取大）、河野公一（大阪医大）、酒井一博（労働科学研）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（島根大）、菅沼成文（高知大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、竹内 亨（鹿児島大）、田中昭代（九州大）、谷川 武（愛媛大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、橋本英樹（東京大）、馬場園明（九州大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、村田勝敬（秋田大）、森 満（札幌医大）、森河裕子（金沢医大）、八幡勝也（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、若林一郎（兵庫医大）、渡辺博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番